

恩返しから始まる多彩な美化活動で盛り上げる地域の担い手たち

協会会長賞 山口県 光市立浅江中学校

日本の渚・百選にも認定された白砂青松の海岸線が続く虹ヶ浜。その景勝地が校区にある同校では、“15歳は地域の担い手”という合言葉を胸に、学校内外に目を向けて散乱ごみの回収活動を行っている。AYC（あさえやっちゃろうクラブ）と名付けたこの活動は2011年から開始。回収ごみは、市で研修を受けた生徒会リーダーが分別指導にあたる。資源循環や保全を意識するようになった生徒は、市が主催する大規模な海岸清掃にも全員参加。

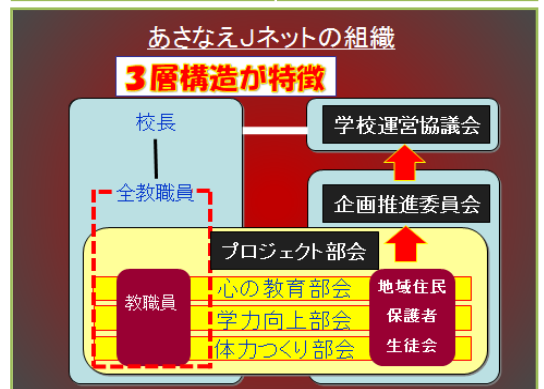
こうした地域と連携を深める仕組みとして重要な役割を担っているのが、学校運営に住民が関わるコミュニティ・スクールの組織だ。「あさなえJネット」と愛称で呼ばれるこの制度は、今年で10年を数え、さまざまな企画が誕生し実践中である。開設当初は、企画推進委員会の構成メンバーである保護者と住民、教職員がプランを練っていたが、2016年から生徒会が参画。

その結果、大人の力だけでなんとか回っていた従来の流れが変わり、生徒が中心になることで力強く自転し始めた。今年度は、あさなえJネットの組織のひとつで、健康な体づくりを目的とした「早朝元気クラブ」と、前述のAYCがコラボした地域の清掃活動を実施。環境美化にとどまらず、住民との交流が深まる取り組みに発展している。

虹ヶ浜に欠かせない松林の保全活動では、生徒は松葉かきの方法を教わる過程で、自分たちに寄せる住民の期待や熱い思いを実感。これらの取り組みを通じ、お世話になっている地域への恩返しの意味を込めて、生徒は校区内の小学生に掃除の仕方を指導するなど、自分たちができることを考え行動に移し始めた。

住民の田村和民さんは、「地域に恩返しをしたいと生徒が多彩な美化活動を行うのは、住民がいつも見守ってくれているという思いが培われているからだ」と分析する。

同校に掲げられたもうひとつの合言葉は、“つながり日本一”。地域一丸となった取り組みが、絆をゆるぎないものになっている。



山口県光市立浅江（あさえ）中学校

学校長：伊藤 幸子（いとう ゆきこ）

生徒数：373名（2018年11月末現在）

住所：山口県光市花園2丁目1番1号

電話：0833-72-0027

アクセス：JR「光」駅からクルマで約5分

写真上：虹ヶ浜の海岸清掃に取り組む、上から2番目左：早朝元気クラブで住民と一っしょに体づくり、右：AYCとコラボした美化活動、上から3番目：地域がつながる「あさなえJネット」組織図、下：生徒の企画で活発化する会議